

**【学校経営の基盤】**

**(1) 公教育の立場から**

- 憲法及び教育基本法、学校教育法等の関係法規の遵守、学習指導要領の準拠、綱紀肅正（体罰、個人情報漏洩、飲酒、セクハラ等の厳禁）
- 公教育の立場を踏まえた人権教育
- 本市教育施策の理解と実践～子育て・教育日本一と創造性あふれる人材の輩出～
  - ① 「SDGsの視点を生かしたシビックプライドの醸成」～誰一人取り残さない教育～
    - ・本市に誇りをもつ子ども
    - ・新たな価値創造に挑戦する子ども
    - ・自立し、思いやりの心をもつ子ども
  - ② 「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の推進、
    - ・5つの視点からの指導のポイントの理解と、指導の具体化

**(2) 子どもを取り巻く今日的課題から**

- 学習指導要領の完全実施に向けて
  - 資質・能力の育成、外国語科・道徳科、プログラミング教育等。
- 子どもを取り巻く問題への対処
  - コロナ禍・スマホ・貧困などへの対処、児童虐待から守るなど。

**(3) 危機管理に鋭敏で安全・安心な学校の確立**

- 危機管理体制の充実を図り、事故・事件の防止に努める。
- 定期的な施設設備の点検。
- 安全指導、安全教育の徹底。

**【学校の状況と課題】**

**(1) 学校が取り組むものから** ～子ども・学校・家庭・地域の実態から～

- どの子にも居場所のある学校
- 安全・安心な学校、危機管理と安全確保
- 「わかる授業」づくり5つのポイントを実現する指導法の改善
- 運動に親しみ、体力向上に励む児童の育成
- 特別支援教育についての理解を広める。
- 子ども・教職員の人権感覚の育成
- 子ども理解と迅速で的確な保護者対応
- 地域の教育力の活用 地域人材の登用、伝統と文化等の伝承
- 保育園、中学校等との交流・連携の促進と諸関係機関との連携

**(2) 子どもに求められるものから**

- 主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成
- 自他を大切に人権感覚と実践力
- 健康な心と体づくり
- 生活・学習習慣、学習規律の定着

**(3) 地域・保護者の願いから**

- お友達と仲良く楽しく学校に通ってほしい
- 勉強がわかる、できるようになってほしい
- 一人一人に目を向け、手厚い教育を行ってほしい
- 心豊かで健全に育ってほしい

「よく子どもを見てくれていて、我が子が大切にされている」という実感を保護者にもたせたい。

**【学校教育目標】**

**豊かな心を持ち、自ら学び、健康でたくましく生きる児童の育成**

**【めざす子ども像】**

- ① あいさつをする子ども
- ② 考える子ども
- ③ 最後までがんばる子ども
- ④ きまりを守る子ども

**【学校経営方針】**

「授業」「学級づくり」の両輪を重視して教育活動を進める。教育活動すべてにわたって児童を肯定的に評価し、「ほめ、ねうちを語る」ことを常に行う。成功体験を積み重ね、「やればできる」という自信をもたせ、児童自身の自己肯定感を高める。

**【努力目標を達成するための留意点】**

- (1) 令和3年度「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現に向けた指導のポイント」を的確におさえる。
  - ・関連・参考となる資料を活用した授業の具体化と改善
  - 「一時間一時間の【授業】の中に、教育のすべてがある。」
- (2) すべての子どもをすべての職員で育てる。心配なことや困ったことを一人で抱え込まずに近接学年、教務主任、生徒指導主任、管理職に相談を。報・連・相の徹底。特に生徒指導上の諸問題。関係機関との連携、ケース会議。（組織的な対応）
- (3) 次の事項を全学級で徹底し、学校力を高める。
  - ※ あいさつ、そうじ、はきもの等をそろえる。（要領の理解・進んで）
  - ※ 話をしっかり聞ける。
  - ※ 抽象化・共通点・相違点などの「考える」材料づくりを繰り返す。
  - ※ 授業の開始と終わりの姿勢・あいさつを皆に徹底する。
- (4) 学習指導計画を綿密に練り、成果と反省を記録に残す。
- (5) 自己評価・自己申告、業績評価、学校評価の有効な実施
- (6) 安全第一・健康第一（業務改善 原則月45時間、年間360時間）
- (7) 時間厳守。子どもと向き合う時間および学年・学級の時間を確保。授業の終始はチャイムとともに。会議は必要最低限に、定刻開始。

**【めざす教師像】**

使命感、情熱、専門的力量(授業力、学級経営力)⇒教育のプロの自覚

- (1) 心身、そして言葉かけが、健康的で明るい教師
- (2) 学習や活動のねうちを語り、児童の自尊感情を高める教師
- (3) 豊かな人間性と専門的力量を前向きに身に付けようとする教師
- (4) 子どもとともに活動し、教育愛に満ちた実践力のある教師
- (5) 謙虚さを忘れない教師

その中で、自分の時間を生み出そうとすることを大切にしている教師

**ほめて育てる みんなで育てる**

**【本年度の努力目標と達成するための方策】**

**「スクールプラン」意識した、自己目標の設定を行い、学校としての組織的な取組を推進する。**

**(1) 主体的・対話的で、深い学びを目指した学習指導**

- ICT機器を活用した授業改善を進める。→まず「使う、取り入れる」そして、「効果的、効率的に」
- 主題研究：一人ひとりの教師の「授業力」が向上でき、日々の授業に生かせるもの。結果として児童の学力の向上、時代を切り拓く力につながる研究を進める。継続的な取組につなげる。
- 学力が伸び悩んでいる児童へのトレーニング的取組の実施、継続的取組・補充学習の内容の工夫による基礎的・基本的事項の定着。
- 学力・体力調査、全児童質問紙等の結果分析を基に、目標の設定・指導法の工夫改善を図る。
- 家庭学習の充実（継続的取組との関連、赤崎スタンダード、家庭学習CHBの活用）。

**(2) 学校安全体制の確立と安全教育・安全指導**

- 登校指導や下校指導の徹底。登下校時の子どもの安全・安心の確保に努める。
- 学校のきまりを全職員で徹底する。休み時間の過ごし方の指導の徹底。怪我・事故の発生防止。
- 学校の危機管理体制の確立と安全教育の推進を図る。
  - PTA・地域と連携して安全体制の確立。交通安全指導とあいさつ運動の促進。

**(3) 確かな人権感覚を育み、人権意識の高揚を図る人権教育**

- 教育活動全体を通じて、豊かな人間性を育てる教育を組織的・計画的に取り組む。
  - 児童の自尊感情の高揚。自他の人格と生命の尊重。人の考えをよく聞く児童、自分の考えを言える児童として、折り合える児童を、今時代だからこそ、育てよう。
- 学校及び地域の実態を踏まえて教育課題を明らかにし、人権教育推進を図り人権尊重の教育を進める。→差別・偏見を見抜き、教育にかかわるものとしての責務を果たす。
- 教職員が人権尊重の理念を十分に認識し人権感覚を身に付ける。

**(4) 豊かな体験を通して、自己の生き方についての考えを深める道徳の実現**

- 道徳科の授業を要し教育活動全体を通じて行う。
- 道徳科の授業の指導方法の工夫改善を継続する。（考え、語り合う活動）

**(5) 子ども理解と保護者対応を基盤にし、自己実現を目指す生徒指導**

- 子どもと教師の信頼関係と子ども間の好ましい人間関係を育む。
  - 子どもの心のサイン(言葉・動き)を見逃さない。心の居場所づくり。
- 子どもの状況を把握し問題行動の未然防止。
  - 問題事象の早期発見・対応。いじめ、生活アンケート実施。危機意識をもって常にアンテナを高く。
- 迅速で確実な保護者対応。
  - 先手必勝、即日即決。子どもへの確かな指導。継続的・積極的な家庭訪問。
- 問題解決に向けて組織的な対応。まず管理職へ一報を。
  - 正確な事実把握、聴取と指導の区別の明確化

**(6) 子ども一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育**

- 特別支援学級の子どもへの共通理解を深める。自立に向けて、個に応じた教育を行う。
  - 交流の時は、「時々来るお客さん」ではなく、「わが学級の子」の意識を強くもつ。
- 通常学級に在籍する要支援の子どもには、実態を十分に把握し適切な指導・支援を行う。
  - 校内支援体制の充実。保護者、関係機関との連携。ケース会議の開催
- 特別支援教育の手法・精神、トレーニング的手法の理解を研修を通して、全学級で。

**(7) 健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ健康教育**

- 学校保健、学校安全、食育の機能をとらえた健康教育の推進を図る。
  - 「新しい生活様式」の徹底によるコロナ等の感染防止、健康の保持増進を啓発・推進する。
- 体育科を中心とした体力向上の取組。（共通の取組を継続的に、運動量の確保）

**(8) 地域の特性を生かし、持続可能な社会作る担い手を育てる教育**

- SDGsの中核校であるとの自負をもち、教師も「おもしろい」と思える実践を試みる。
  - 学習する内容が、SDGsのどのゴールに関連するのかを教師・児童ともに自覚できる授業教科等横断的な学びの構築並びに、カリキュラムマネジメントの推進
  - 「活動→問い・疑問をもつ→追究し、考えを深める→活動への帰帰」のプロセスで、育てたい児童像へ